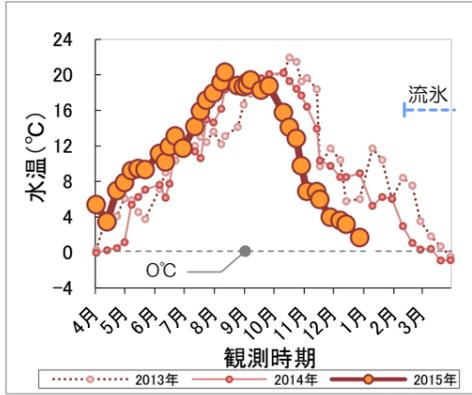


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2015年12月)

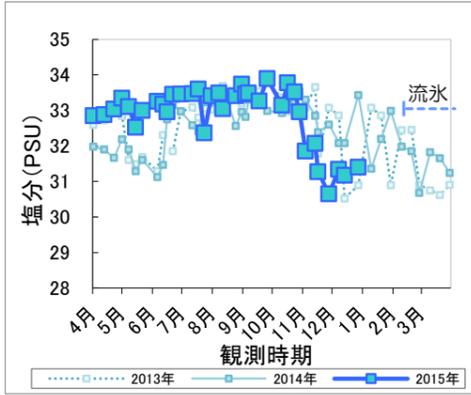
海洋環境データ

◎水温 (0~9mまでの平均値)



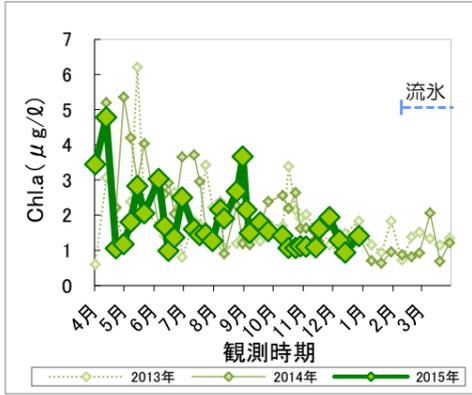
※2016年1月27日：流水初日 発表

◎塩分 (0~9mまでの平均値)



※2016年1月27日：流水初日 発表

◎Chl. a (0~9mまでの平均値)

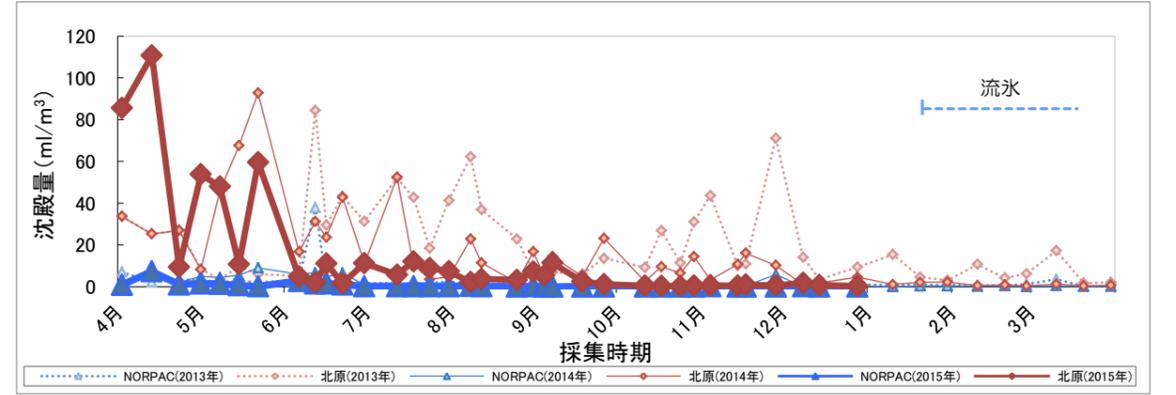


※2016年1月27日：流水初日 発表

動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



※2016年1月27日：流水初日 発表

概要

	12月8日	12月14日	12月28日
平均水温 (°C)	3.6	3.2	1.7
平均塩分 (PSU)	31.3	31.2	31.4
平均Chl.a (µg/l)	1.3	0.9	1.4
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 0.2 (北原式定量ネット) 1.8	(NORPACネット) 0.1 (北原式定量ネット) 0.8	(NORPACネット) 0.1 (北原式定量ネット) 0.4
主な出現種	(NORPACネット) ○Neocalanus cristatus [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Pseudocalanus newmani [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Clausocalanus pergens [+] (カイアシ類の1種) [暖水性] ◎Acartia hudsonica [+++] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○Acartia longiremis [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] (北原式定量ネット) ○Neocalanus flemingeri [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Paracalanus parvus s.l. [+] (カイアシ類の1種) [暖水性] ◎Pseudocalanus newmani [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Eurytemora herdmanni [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○Acartia hudsonica [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○Acartia longiremis [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Copepoda (nauplius) [+++] (カイアシ類のノープリウス幼生)	(NORPACネット) ○Mesocalanus tenuicornis [+] (カイアシ類の1種) [暖水性] ○Pseudocalanus minutus [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Eurytemora herdmanni [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ◎Acartia hudsonica [+++] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○Acartia longiremis [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] (北原式定量ネット) ○Pseudocalanus minutus [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Eurytemora herdmanni [+++] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○Acartia hudsonica [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○Acartia longiremis [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Copepoda (nauplius) [+++] (カイアシ類のノープリウス幼生)	(NORPACネット) ◎Pseudocalanus newmani [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Metridia pacifica [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Acartia hudsonica [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○Acartia longiremis [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] (北原式定量ネット) ○Paracalanus parvus s.l. [+] (カイアシ類の1種) [暖水性] ○Pseudocalanus minutus [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [++++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Acartia hudsonica [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○Acartia longiremis [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Copepoda (nauplius) [+++] (カイアシ類のノープリウス幼生)
備考	○ (NORPACネット) 腐植質やや多い ○ (北原式定量ネット) 腐植質多い	○ (NORPACネット) — ○ (北原式定量ネット) 腐植質やや多い	○ (NORPACネット) — ○ (北原式定量ネット) 腐植質やや多い

出現量の多かった種類

- *Paracalanus parvus* s.l. * (カイアシ類の1種: パカ双・パカ双) 体長: ♀0.8-1.0mm, ♂0.7-1.0mm. 全世界の沿岸域に分布。日本では各地沿岸に分布するカラウスカイアシ類の1種で、本州中部以南では春、東北以北では夏に多く出現する。
- *Pseudocalanus minutus* * (カイアシ類の1種: ユダ双・ユダ双) 体長: ♀1.4-2.1mm, ♂1.1-1.6mm. 北半球の沿岸域に分布。後述する *Pseudocalanus newmani* に比べてやや大型である。
- *Pseudocalanus newmani* (カイアシ類の1種: ユダ双・ユダ双) 体長: ♀0.9-1.5mm, ♂0.8-1.2mm. 冷水域に極めて普通に出現する。東北以北の沿岸では冬季最もカイアシ類の1種となる。
- *Eurytemora herdmanni* (カイアシ類の1種: ユダ双・ユダ双) 体長: ♀1.3-1.4mm, ♂1.1-1.2mm. 主に北半球高緯度地方に分布。日本では北海道東部の汽水域や沿岸域、青森・三浦等で知られる。雌の体の後部が左右非対称に突出するが特徴。
- *Acartia hudsonica* (カイアシ類の1種: アカア・アカア) 体長: ♀0.8-1.2mm, ♂0.7-1.0mm. 九州以北の北西太平洋沿岸の汽水・冷水域。国内の出現は汽水・冷水域に限られる。本州以南の間の汽水域は、しばしば冬季に優占種となる種。
- *Acartia longiremis* * (カイアシ類の1種: アカア・アカア) 体長: ♀1.0-1.4mm, ♂0.9-1.2mm. 冷水性。世界各地の冷水域沿岸に出現する。日本では主に東北から北海道沿岸に分布する。
- *Oithona similis* (カイアシ類の1種: オイシ) 体長: ♀0.7-1.0mm. 各地の沿岸・沿岸・外洋で普通に出現。日本各地の沿岸にみられる代表的な種。各水域に広く多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。
- *Copepoda (nauplius)* (カイアシ類のノープリウス幼生) カイアシ類の発生途中の幼生。脱皮を繰り返してノープリウス、コペポダ幼生の段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚生体には、餌としてカイアシ類のノープリウス幼生密度が決定的といわれている。

※ *Paracalanus parvus* s.l., *Pseudocalanus minutus* および *Acartia longiremis* は今回の調査に含まれなかったが、比較的頻りに出現していたため参考として記載した。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者主観による個体数の多さを示す ([+]出現, [++]やや多い, [+++]多い, [++++]かなり多い, [+++++]極めて多い)。
 ※種名の後ろの記号は、北海道において後述の性質が強い種類を示す (◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。
 ※今回のサンプルには腐植質 (主に枯死・分解した植物由来の物質) が多く含まれており、沈殿量および湿重量はこれを含んだ数値で示す。
 ※沈殿量欄の“0.0”表示は四捨五入の都合上、“0.1 (ml/m³)”未満になったことを示す。
 ※参考文献: ①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説 [東海大学出版会] / ②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑 [保育社] / ③岩国市立微生物学館 監修 (2011) 日本の海洋プランクトン図鑑 [共立出版]
 ④Wilson, M. S., 1966. North American Harpacticoid copepods. 8: The *Danielssenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* 20 (4), 435-444.
 ⑤Pinchuk, A. I., Hopcroft, R. R., 2006. Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* 332, 206-215.
 ⑥林 (2006) 水産無脊椎動物学入門 [恒星社厚生館] / ⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima, 2005. A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* 52 (2), 92-99.
 ⑧西・加藤 (2002) 日本産カムムリゴカイ科多毛類の分類について. *タカラ* 第13号, 5-17. / ⑨今島 (1996) 環形動物 多毛類 [生物研究社] / ⑩日本プランクトン学会 監修 (2011) ずかん プランクトン [技術評論社] / ⑪水島・鳥澤 監修 (2003) 漁業生物図鑑 新北のさかなたち [北海道新聞社]